

メキシコでの下水処理事業



山埜 英樹 (やまの ひでき)
住友商事株式会社
電力・水事業第一部長付

1. メキシコにおける下水道整備

紀元前から栄えたマヤ文明や13世紀に華開いたアステカ文明など、メキシコには世界遺産に指定されたものを含めて数多くの遺跡が残る。その中には古き時代の貯水池や下水道の跡もあり、かつての都市基盤整備の先進性を物語っている。翻って現在のメキシコは、他の中進国や発展途上国と同様、経済成長の進展と人口増加のペースに社会インフラの整備が追いついておらず、生活環境や衛生状態への悪影響が深刻化している状況にある。

メキシコにおける環境対策は、1994年のNAFTAの発効によって一定の進展を見た。メキシコ、米国、カナダの3カ国間で締結されたNAFTAの環境協定には「国内法制によって高い環境保護水準を確保し、その向上に向けて継続的に努力する」ことが共通の義務として規定され、これを受けてメキシコ政府は大気汚染対策、無鉛ガソリンの義務化、植林、下水・排水規制などの環境規制を法制化していった。

しかしながら、水道の分野においてははまだ十分な整備がなされているとは言い難い。とりわけ下水処理施設の整備は遅れており、人口の約90%がアクセスを持つに至った上水道と比較しても、改善余地は際立っている。下水の配管網は段階的に拡張されているものの、処理場の能力が必要量の25%程度に限られているため

に、下水の多くは処理をされないまま河川に放^お水されており、これが河川の汚染や地下水の汚^た濁を引き起こしている。

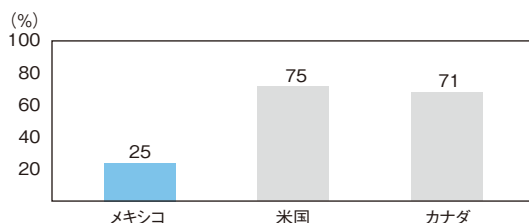
人間の生存を左右する上水道整備の緊急性に比べて、下水道に対する注目度は相対的に低く、資金投資の優先度が劣後してしまうのはメキシコに限った事象ではない。しかし、今の状態を放置すれば原水の汚染による上水道の水質低下、国民の衛生状態の悪化という悪循環は避けられず、下水道の整備はメキシコにおける長年の、そして喫緊の課題となっている。

2. 住友商事の取り組みと民活スキーム

当社は早くからメキシコにおいて浄水場や下水処理場の建設、機器供給、育苗場の造成や植林事業などの環境関連プロジェクトを手掛けてきた実績を持つ。その経験を活かし、民間企業として適正な投資の経済性を確保しつつ、地域社会への貢献をめざして2006年に運営を始めたのが、メキシコ中部のサン・ルイス・ポトシ(SLP)市における下水処理サービス事業である。本件は、約9万トン/日の処理能力を持つ下水処理場を建設し、完工後18年間にわたり運営するというBOT契約方式によって整備されたもので、当社は上下水処理分野の世界的なトップ企業である仏デグレモン社と提携してサービスの提供を行っている。

一般に、民活による社会インフラ事業が成功を収めるには、いくつか重要な前提があるといわれている。参画した民間企業が当初の契約で定められたレベル以上のサービスを安定的に供

図1 NAFTA加盟国の下水処理施設普及率の比較





サン・ルイス・ポトシ市で運営中の下水処理場（右は汚泥消化タンク）

給することは当然のことだが、公共サイドにおいても民活導入時に企業がリスクを伴う投資に踏み切りやすく、かつ長期間にわたって適用しうる諸制度を整えるとともに、導入後も民間に任せきりにせず、的確な管理、管轄を続けることが求められる。

この観点からメキシコの民活下水道事業を考察するに、民間の資金と技術力を取り入れることによって処理施設の整備を行っていききたいとの政府の明確な意図が浮かび上がってくる。事業の運営は各地方自治体に委ねられているものの、環境天然資源省傘下の国家水利委員会が連邦政府レベルで管理しており、また投資資金面でも国立公共事業銀行を通じて設備投資ローンなど各種の民活化支援スキームが構築されているといった点で、民間企業にとって安心できる投資環境が整っているといえよう。

3. 環境保全と地域社会への貢献

当社は、SLP市での操業開始後、デグレモン

社がすでに設立していた他のBOT会社2社に出資し、現在はメキシコにおいて3件の下水処理サービス事業を運営するに至った。パートナーであるデグレモン社の高度な技術的サポートを得ながら、当社が長年培ったビジネスの経験や実績、資金調達能力、そして複合的な事業スキームへの対応力と事業会社のマネジメント・ノウハウを発揮して、今や200万人の人口を抱える地域の環境改善や産業の振興に寄与している。

上水道という「動脈」によって供給され、「静脈」たる管路を経て戻ってくる貴重な水資源を再び浄化して再利用可能な状態に戻す下水処理場は、人間の体なら血液をろ過する「腎臓」の役割を担っているといえ、この存在を得ようやく衛生的で持続可能な水の循環サイクルが完結する。当社が運営する処理場で環境基準に沿って処理された下水は、農業用水などに効率的にリサイクルされ、さらに地域によっては工業用水や発電所冷却水としても利用されている。

海外で活動する企業にとって、所在国が抱える問題の解決の一助となる形で適正なビジネスを展開することは、最も望まれる姿であろう。その好例の一つとして、メキシコでの下水道事業は当社にとって大きな意義を持っている。当社では今後とも、メキシコはもちろんのこと、それ以外の地域においても、下水処理をはじめとした水事業や環境保全事業に積極的に取り組み、良好な生活環境の維持、改善と地域社会の発展に向けて貢献していきたいと考えている。

